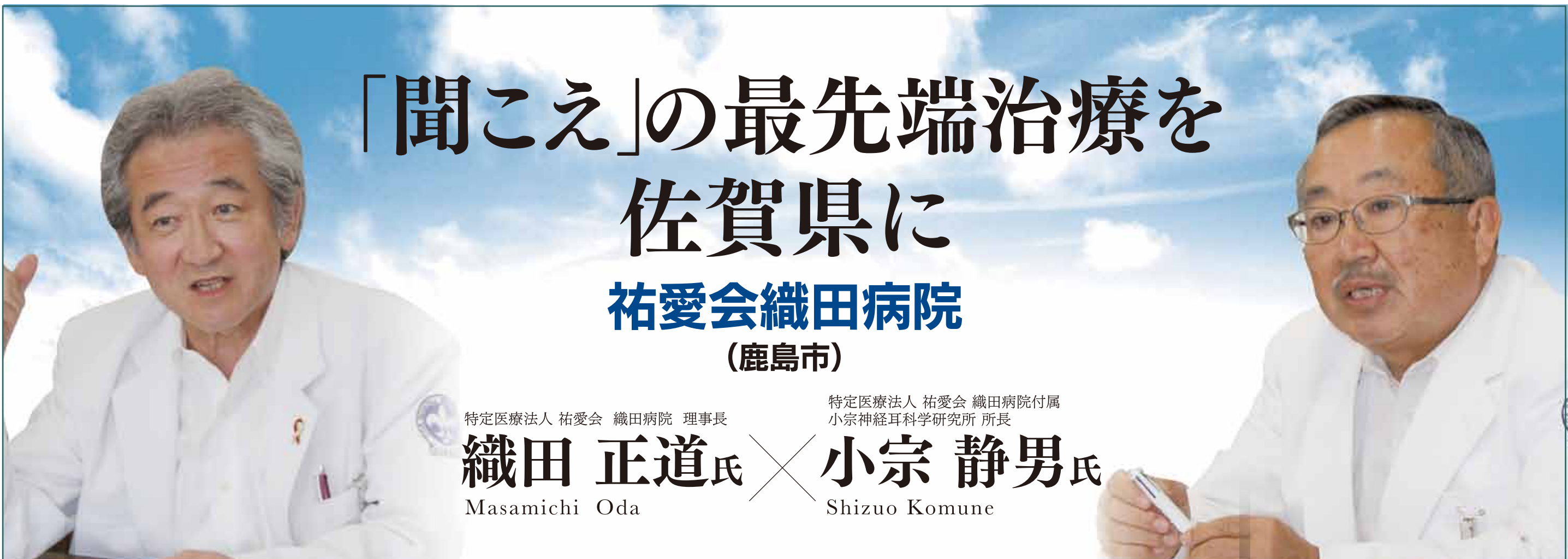




特定医療法人 祐愛会 織田病院 理事長

織田 正道氏

Masamichi Oda

特定医療法人 祐愛会 織田病院付属
小宗神経耳科学研究所 所長

小宗 静男氏

Shizuo Komune

織田 正道氏 おだ まさみち

1978年 日本大学医学部卒業
1978年 久留米大学医学部耳鼻咽喉科
1980年 久留米大学医学部麻酔科
1982年 佐賀医科大学耳鼻咽喉科
1998年 (特定)医療法人祐愛会 理事長

日本耳鼻咽喉科学会 専門医 代議員

「聞こえ」は、人間関係をつくる大切なコミュニケーションの問題に直結します。
見た目には分からないために、辛い思いをしてきた人も多いのではないのでしょうか。
最近は医療技術の進歩や、「聞こえ」を補償するさまざまな聴覚支援機器が登場し、
難聴は「治らない」とあきらめている人にも光が見えてきました。

「聞こえ」の拠点病院を目指す織田病院の織田正道理事長と、
多くの患者さんが「聞こえ」を取り戻した感動の現場に立ち会ってきた神経耳科学専門医の小宗静男氏に、
佐賀新聞社の中尾清一郎社長が、早期発見早期治療の大切さなどを聞きました。

小宗 静男氏 こむね しずお

九州大学医学部名誉教授

1975年 九州大学医学部卒業
1979年 アメリカ合衆国ペンシルベニア大学
耳鼻咽喉科留学
1997年 宮崎医科大学耳鼻咽喉科教授
2004年 九州大学医学部耳鼻咽喉科教授
2015年 一般社団法人ゆあい社会福祉事業団理事長
特定医療法人祐愛会織田病院付属
小宗神経耳科学研究所所長

理解力と判断能力の成長、
コミュニケーションに大切な
「聞こえ」

中尾 6月23日、九州大学医学部名誉教授で、前日本耳鼻咽喉科学会会長の小宗静男先生を迎えて「小宗神経耳科学研究所」を開設されました。織田 小宗先生は、耳科学分野において、日本のトップリーダーですから先生が今後もリサーチを続けていける環境を作るために「小宗神経耳科学研究所」を開設しました。特に、神経耳科学領域における人工内耳などの医療技術の進歩はめざましく、聴覚障害を持つ患者さんにとっては光明となる新しい機器も次々に開発されています。

中尾 小宗先生は耳のスペシャリスト。昨年まで大病院で耳治療の最先端で活躍してきました。改めて「聞こえ」の大切さについて教えてください。
小宗 音はコミュニケーションの大切な手段です。人は聞いて言葉を繰り出すわけですから、音が聞こえないと言語発音が障害され大きなコミュニケーションの障害をもたらします。

「聞きたい」「聞こえるようになりたい」
—その願いをあきらめないで—



小宗耳科サージンセンター

小宗 手術で治る疾患と、治らない疾患があります。手術で治るポピュラーな疾患は中耳炎です。慢性化しても多くの症例で手術で聴力を改善することが期待されます。私が医師になった40年前に比べたらずいぶん進歩したと思います。でも、中耳炎を放置すると内耳に炎症が進みます。内耳は音を電気に変換する大切な神経細胞がある場所です。しまします。すると音を電気に変換できないうえ、中耳炎の手術をしても「聞こえ」の改善

成功していますので、近い将来、人にも使えるようになると思います。
中尾 中耳炎はかなりの確率で改善できることでしたが、手術で改善できない場合は、どのような治療法があるのでしょうか。
小宗 聴覚支援機器で補償します。代表的な聴覚支援機器は補聴器ですが、耳にかけると骨に振動させて音を伝える「骨導補聴器」、頭蓋骨に直接埋込んで音を聞かせる「埋め込み型骨導補聴器(BAHA)」もあり、昨年から保険適用になりました。さらに音を伝える骨に直接アプローチする「人工中耳」が開発されました。これを利用するとかなり聞こえはよくなります。近い将来保険適用になる予定です。

織田 県内には、これまでこの領域を専門とする先生がおられませんでしたので、手術は県外に行かなくてはなりませんでした。ですから、小宗先生をお迎えしたことは県内の「聞こえ」で困っている方にとって朗報だと思います。
中尾 今まで治療を諦めていた人にも、新たな光が見えてきたということ

という意味では手遅れということになります。
中尾 手術で治らない場合、治療法はあるのですか。
小宗 つい20年前までは内耳の障害は治療方法がないと言われていました。生まれつき聞こえないこともさんや老人の難聴の多くが内耳障害です。しかし、今は内耳障害があっても人工内耳を埋め込む手術をすれば、音を感知できるようになります。人工内耳が開発されたおかげで、中途失聴者の方は音を取り戻せますし、先天性の高度難聴のこともさん達の言語発育支援に大きな福音となっています。この手術は生後6カ月からできます。

中尾 私、耳鼻咽喉科の医師ですが、小宗先生のお話を聞いて、改めて乳幼児期の早期発見、早期治療が、如何に大切であるかを痛感しています。
小宗 言語の発育に重要な期間は3歳までと言われています。5歳までインドの山奥で狼に育てられた少女の話は有名ですが、発見後、音声の専門家が数年かけて話ができるように訓練をしました。しかし結局、40ほどの単語しか出なかったといえます。小さい頃から言語に触れることがいかに大切かが分かると思います。

早期発見 早期治療が大切

中尾 「聞こえ」を改善するには、どんな治療が必要ですか。



人工内耳

もう一つは「再生治療」です。音を聞く神経細胞がダメージを受けているわけですから、神経細胞を蘇らせる方法です。現段階で動物実験が

「再生治療」です。音を聞く神経細胞がダメージを受けているわけですから、神経細胞を蘇らせる方法です。現段階で動物実験が

聞こえの改善が
認知症予防に

中尾 高齢者はどうですか。加齢で耳が遠くなった人は多いですが、せっかく子や孫から補聴器をプレゼントされてもつけない人もいます。
小宗 佐賀で治療を始めて思ったのが「年だから仕方ない」と諦めている高齢者多いということ。補聴器はその人の聴力に合わせて調整しないと音が強く聞えるだけで、言葉の聞き取りは良くないということが起こります。また「耳漏があるために補聴器がつけられない」という方もいます。耳漏

「お父さんの声が
聞こえる」に涙

小宗 感動的な出会いもあります。耳の聞こえない娘と父親2人暮らしの家族がいて、人工内耳手術を希望されました。手術のための検査結果があまり良くなかったため、人工内耳



中尾 今「聞こえ」で困っている方もあきらめないでほしいですね。最後に今後の展望は。

中尾 今「聞こえ」で困っている方もあきらめないでほしいですね。最後に今後の展望は。



聞き手 中尾清一郎

